

夫婦の職業生活が夫婦の関係性に及ぼす影響

平木 典子 (日本女子大学) 秋山 泰子 (日本女子大学人間社会学部心理学科)
平山 順子 (郡山女子短期大学) 柏木 恵子 (文京学院大学)

<要 旨>

本研究の目的は、妻がフルタイムで就労する夫婦で、これまでにない新しい夫婦の関係性がみられる事実に注目し、妻フルタイム就労夫婦を対象に、夫・妻それぞれの社会経済的属性、ことに収入、労働時間など職業生活に関する変数が、どのような心理的メカニズムで夫婦の関係性に影響を及ぼすかを検討する。第1水準に夫・妻の属性変数、第2水準に職業生活に関する心理的変数、第3水準に「親和・共感」的コミュニケーション態度を仮定し、重回帰分析を行った。その結果、夫・妻の社会経済的属性の「親和・共感」コミュニケーション態度への直接的効果は見出されず、職業に関する心理的変数を介して、コミュニケーション態度に影響を与えるという関係が見出された。すなわち、妻の収入が高く妻の労働時間が長いほど、反対に、夫の収入が低いほど、夫側では配偶者(妻)が働いていることへの〈肯定的評価〉が高まる。この夫側の妻就労に対する〈肯定的評価〉を介して、夫の妻に対する〈親和・共感〉的態度が強まることが明らかにされた。

<キーワード>

夫婦間コミュニケーション、共働き、就労の意味、夫婦の関係性

【はじめに】

日本の夫婦関係は、妻の家事・育児の負担が大きいこと、夫と妻との意識・感情のギャップが顕著で、妻は夫に比べて結婚・夫婦関係に対する不満が高いことなどが明らかにされており、夫婦間の対等なパートナーシップの点で多くの問題を内包している。

しかしながら、妻が常勤で働く夫婦の間で、従来とは異なる新しいタイプの夫婦が出現しつつあることが明らかにされている。すなわち、夫婦の役割関係についての社会学的研究は、妻が常勤であること、子どもがいないこと、夫以上に労働時間が長いこと、収入が高いことなどいくつかの要因が重なった場合に、夫も家事を

(永井, 1992; 松信, 1995; 松田, 2002; 鎌田, 1999)。また、情緒的關係やコミュニケーション関係においても、妻の経済的地位が高いほど、夫婦が互いに相手をケアする関係の対称性が高く、相互的・互恵的になること(平山, 1999)、夫は妻に対してより共感的なコミュニケーション態度をとることなどが示されている(平山・柏木, 2001)。これらの先行研究の結果は、収入や学歴などの属性変数や夫婦がどのように職業生活を営んでいるかが夫婦の情緒的關係やコミュニケーション態度に大きな影響を与えることを示している。

また、中年期夫婦を対象に夫婦のコミュニケーション・パターンについての先行研究(平山・

柏木,印刷中)は、夫婦のコミュニケーション・パターンに、3群があること、双方がポジティブな態度でコミュニケーションをしている「共感親和群」(36.5%)、平均的で中立的なコミュニケーションをしている「平均中立群」(35.7%)、双方がネガティブな態度でコミュニケーションをしている「威圧回避群」(27.8%)を示している。このうち、「共感親和群」は、夫・妻ともに相手に対する共感的コミュニケーション態度が顕著に高く、夫・妻ともに夫婦関係満足度が高いことが明らかにされた。この知見から、夫婦がともに夫婦関係に満足している「共感親和群」に特徴的な「共感・親和」コミュニケーション態度に注目することは、夫婦間の対等なパートナーシップを形成・維持するための条件を探る上できわめて有効であると考えられる。

そこで、本研究は、夫婦のポジティブなコミュニケーション態度に注目し、妻が常勤で働く共働き夫婦を対象に、夫・妻それぞれの社会的な属性変数、ことに職業生活に関する変数が、どのような心理的メカニズムで夫婦のコミュニケーション関係に影響を与えるかを明らかにする。上述の先行研究の知見に基づき、社会的な属性変数として、夫・妻のそれぞれの学歴、収入、労働時間を取り上げた。職業的変数としては、夫・妻それぞれが配偶者の職業生活や夫婦が共に働いていることをどのように位置・意味づけているかを取り上げる。すなわち、これまでの先行研究で、収入との間に見出されている関連性は、配偶者の職業生活のもつ意味、および共働きの意味などの心理的変数を媒介して、コミュニケーション態度に影響していると考えられるからである。

これらの仮説に基づき、収入や労働時間は、職業的変数に関する、心理的な変数を介して、コミュニケーション態度に影響を与えるとすると、コミュニケーション態度の因果モデルを構築した。具体的には、第1水準には、社会的な属性変数として、夫・妻の学歴、収入、労働時間、第2水準には、夫婦の職業生活に関する心理的変数として配偶者就労の意味、および共働きの意味、第3水準には、夫・妻双方のポジティブなコミュニケーション態度を位置付けた。

方法

【調査方法】

東京都内・大阪府近郊に在住の既婚者を対象とし、質問紙調査を実施した。企業主催のセミナーに参加した社員、子育て学級に参加した乳幼児の両親への配布、大学生の両親に対して、調査票を郵送した。夫婦ともに回答が得られた361組(回収率:37.1%)のうち、婚歴1年以内の夫婦を除外し、30代から50代の夫婦292組を抽出した。本研究では、目的にしたがって、そのうち、妻がフルタイムで就労している114組を分析対象とした。分析対象に夫婦の属性は、Table 1の通りである。調査時期は、2002年3月～12月であった。

【調査内容】(1) コミュニケーション態度; 平山・柏木(2001)の「夫婦間コミュニケーション態度」尺度を修正し、新たに14項目を加えたものを使用した。新たに加えた項目は、近年社会的問題として取り上げられるようになってきているDV的なコミュニケーション態度、および臨床現場で報告されている回避的・抑制的な態度を示す項目である。

Table 1 分析対象夫婦、共働き夫婦(N=114 組)に関する基礎的事項

	夫		妻	
年齢	45 歳 (SD; 7.8)		43.2 歳 (SD; 6.8)	
学歴	中学・高校卒	45.7%	中学・高校卒	27.2%
	短大・専門学校卒	7.0%	短大・専門学校卒	47.4%
	大学卒以上	47.3%	大学卒以上	25.5%
職業	家業・自営業	16.2%	家業・自営業	12.5%
	専門職	22.5%	専門職	51.8%
	事務・サービス・製造職・管理職	53.1%	事務・サービス・製造職・管理職	43.5%
	その他	8.1%	民間の企業	4.5%
年収	400 万未満	5.4%	400 万未満	36.0%
	400-800 万未満	30.8%	400-600 万未満	36.0%
	800 万以上	63.0%	600 万以上	27.9%
役職の有無	役職あり	67.9%	役職あり	27.0%
労働時間	週 53.3 時間(SD;17.7)		週 45 時間(SD;11.1)	
結婚年数	16.5 年(SD; 8.6)			

(2) 配偶者就労の意味; 配偶者が就労していること、あるいは配偶者の就労をどう捉え、意味・位置づけているかを測定する質問 11 項目を作成した。作成に当たっては、妻の就労の家庭への影響についてのワーク・ファミリー・コンフリクト尺度 (金井・若林、1998) や家庭と仕事のスピルオーバーについての先行研究 (福丸、2000) を参考にした。(3) 共働きの意味; 夫婦で就労していることをどう意味・位置づけ、評価しているかを測定する質問 5 項目を作成した。(1)~(3)の測定は、「とてもあてはまる」から「全くあてはまらない」までの 4 件法を用いた。(4) 属性変数; 夫・妻の年齢、学歴、職業、収入、妻の就業形態、収入、労働時間、家族形態などを尋ねた。

結果と考察

「コミュニケーション態度」の構造
夫・妻は相手に対してどのようなコミュニケーション態度をとっているのだろうか。コミュニ

ケーション態度の構造を明らかにするため、因子分析(主因子法・バリマックス回転)を行った。その結果、次の 5 因子が抽出された。①相手に対して批判的、要請的で威圧するような態度を示す (威圧)。②親和的、共感的に関わろうとする態度を示す (親和・共感)。③相手への関わりや葛藤を避けようとする態度を示す (回避)。④手が出る、物に当たるなど暴力的な態度を示す (暴力)。⑤言いたいことがあっても言わずに我慢する態度を示す (抑制)。抽出された因子の構成項目について α 係数を算出したところ、Table 2 に示すとおり、比較的高い信頼性が得られたので、各因子の構成項目の素点の平均値をもって、「コミュニケーション態度」を示す代表値とする。ただし、本研究では、先述の理由により、5 因子のうち、〈親和・共感〉のみを取り上げた。

「配偶者就労の意味」の構造

夫・妻それぞれにとって、配偶者が働くことは、どのような意味・価値があるのだろうか。換言すれば、配偶者の就労は、どのように納得・了

解されているのだろうか。「配偶者就労の意味」の構造を明らかにするため、因子分析(主因子法・バリマックス回転)を行った。その結果、次の2因子が抽出された。

①配偶者が就労していること、職業生活そのものに対してポジティブな評価をしていることを示す(配偶者就労の肯定的評価)。②配偶者が就労していることで家族生活あるいは夫婦関係にネガティブな影響を認知していることを示す(家族生活への悪影響)。これら2因子の構成項目について α 係数を算出したところ、

Table3 に示すとおり、比較的高い信頼性が得られたので、各因子の構成項目の素点の平均値をもって、「配偶者就労の意味」を示す代表値とする。

「共働きの意味」の構造

「配偶者就労の意味」と同様に、夫婦でとも働きしていることにどのような意味を感じているかについても、その構造を検討した。主成分分析の結果、共働きをしていることで経済的にも、互いの仕事の大変さなどをわかりあえるなど情緒的にもポジティブな価値を見出し

Table 2 コミュニケーション態度尺度の因子分析結果(主因子法・バリマックス法)

項目	F1	F2	F3	F4	F5
4 配偶者に対して批判的な態度をとる	.721	-.077	.030	.004	.031
3 話の内容が気に入らないと、すぐ怒る	.688	-.049	.068	.137	-.063
22 配偶者に対していらいらした口調で受け答える	.657	-.148	.305	.051	-.025
14 ささいなことでいらいらしたり、配偶者に対して不機嫌な態度をとる	.655	.028	.217	.083	.009
5 ちょっとしたことで、配偶者に対して大声で怒鳴る	.596	-.122	.067	.345	-.124
7 仕事や家庭外のことで配偶者にやつ当たりするような態度をとる	.543	.079	.200	.152	-.014
33 配偶者に不満があると、冷ややかな態度に出る	.509	-.092	.145	.024	.259
16 日常生活に必要な用件を命令口調で言う	.480	-.073	.335	.264	-.180
18 配偶者に対して意味なく威張ったり、偉そうな態度をとる	.478	-.034	.348	.350	-.133
19 自分の要求を通そうと、配偶者にしつこく言いつける	.369	.127	.372	.274	-.164
13 嬉しいことがあると、真っ先に配偶者に報告する	.026	.719	-.076	-.059	-.074
8 配偶者に元気がないとき、気づいてやさしい言葉をかける	-.161	.684	-.026	-.148	-.059
12 配偶者の悩み事の相談に対して、親身になっていっしょに考える	-.096	.667	-.068	-.038	-.111
2 配偶者の立場に共感しながら誠実に耳を傾ける	-.210	.658	-.105	.044	-.041
23 配偶者に心を開いて内面的な突っ込んだ話をする	.124	.636	-.092	-.061	-.165
1 配偶者への思いやりを言葉にする	-.172	.617	-.048	-.056	-.021
17 会話が途切れるとあなたの方から話題を提供する	.014	.507	-.101	-.009	.003
6 あなた自身の悩み・迷い事があると、配偶者に相談する	.104	.485	-.078	.105	-.116
20 配偶者が話をしているとき、聞いているふりをする	.196	-.205	.607	-.035	.139
25 他のこと(テレビを見る、新聞を読む)をしながら上の空で聞く	.149	-.191	.512	-.080	.146
10 都合の悪い話になると、黙り込む	.163	-.171	.459	.026	.239
21 配偶者が話しているのに「要するに」といって結論をせかさず	.317	-.071	.423	.095	-.049
11 何か要求があると、無言の圧力をかける	.332	-.038	.338	.124	.204
9 配偶者に腹が立つと、手が出る	.203	-.001	-.034	.771	-.011
15 配偶者に腹が立つと、物を投げる	.222	-.145	.057	.697	-.012
32 配偶者に対して不満や言いたいことがあっても言わない	-.020	-.217	.094	-.085	.728
26 配偶者の態度・行動で変えてほしいことがあっても黙っている	-.074	-.175	.180	-.004	.722
固有値	6.28	3.91	1.97	1.35	1.24
累積寄与率(%)	14.4%	27.1%	33.8%	39.8%	45.0%
α 係数	.87	.86	.74	.76	.76

Table 3 配偶者の就労の意味尺度、因子分析結果(主因子法・バリマックス回転)

肯定的評価	配偶者は仕事をして生き生きしている	.760	-.122
	配偶者は仕事で人に認められている	.708	.101
	配偶者は仕事でやりがいを感じている	.707	.003
	配偶者は仕事を通して社会に貢献している	.655	.009
	配偶者の仕事での頑張りを誇らしく思う	.632	-.001
	配偶者の仕事の話聞くのが楽しい	.458	-.005
	配偶者は経済的な必要性からやむなく仕事をしている	-.350	.170
家族生活への悪影響	配偶者は仕事で疲れていて機嫌が悪い	-.144	.700
	配偶者は仕事のストレスを家庭に持ち込んでいる	-.143	.693
	配偶者の職業のために、家庭が犠牲になっている	.009	.693
	配偶者の仕事が忙しくて、夫婦でゆっくりする時間がない	.231	.489
	固有値	3.39	2.23
	累積寄与率	25.80%	41.10%
	信頼性係数 $\alpha =$.81	.71

Table 4 共働きの意味(主成分分析)

	夫婦で働いていると、経済的ゆとりが持てる	.841
経済的・情緒的 メリット	夫婦で働いていると貯蓄ができる	.785
	夫婦で働いていると、自分の自由になるお金が増える	.747
	夫婦で仕事をしていることで、共通の話題がもてる	.665
	夫婦で仕事をしていることで、お互いの仕事の大変さがわかりあえる	.653
	固有値	2.75
	寄与率	55%
	信頼性係数 $\alpha =$.79

ていることを示す〈経済的・情緒的メリット〉が抽出された。高い信頼性が得られたので、構成項目の素点の平均値をもって、尺度得点とした。信頼性係数は Table4 の通りである。

モデルの検討

夫・妻それぞれの社会経済的属性変数 3 変数、「配偶者就労の意味」2 変数、「共働きの意味」1 変数の計 12 変数を説明変数に、相手に対するコミ

ュニケーション態度のうちポジティブな態度である〈親和・共感〉の 2 変数を被説明変数として、先に予測した因果モデルにしたがって、重回帰分析を行った。結果は、Table 5 に示すとおりである。Figure 1 は、このうち、有意な関係を図示したものである。

仮説のとおり、夫・妻の社会経済的属性から〈親和・共感〉コミュニケーション態度への直接的な

効果は見出されず、職業に関する心理的変数を介して、コミュニケーション態度に影響を与えると
いう関係が存在することが明らかにされた。すな
わち、妻の収入が高く、妻の労働時間が長いほど、
反対に、夫の収入が低いほど、夫側では、配偶者
(妻)が働いていることへの〈肯定的評価〉が高
まる。この夫側の妻就労に対する〈肯定的評価〉
を介して、夫の妻に対する〈親和・共感〉的コミ
ュニケーション態度は強まること明らかにされ
た。さらに、ここで、興味深いのは、夫が妻の就
労を肯定的評価が高くなるほど、妻側の夫に対す
る〈親和・共感〉的コミュニケーション態度は強
まることである。

このことは、妻側からみれば、自分の就労を夫
が肯定的に評価してくれているほど、夫に対して
親和的で共感的な態度をとることを示す。夫婦の
コミュニケーションがまさに相互的・互恵的なも
のであることを如実に示している。

総合的考察

これまでも職業生活が夫婦関係にさまざまな
影響を与えることについては、評論的・経験的に
は多くの指摘がなされてきた。

本研究の結果からは、夫婦のコミュニケーション
関係において、夫が妻の職業生活および夫婦で
共働きしていることにどのような価値・意味を見
出し、妻の就労を自分自身および自分たちの生活
のなかでどう位置づけているかが、夫の妻に対す
る共感的なコミュニケーション態度に影響してい
ること、具体的には、夫が、妻の就労を肯定的に
評価しているほど妻に対して〈親和・共感〉的な
コミュニケーション態度をとることが明らかにさ

れた。では、どういう場合に、夫の妻の就労に対
する態度が肯定的なものになるのであろうか。こ
こで、特筆に値するのは、夫の妻就労に対する肯
定的評価が、妻の収入の高さ、労働時間の長さ
とつながっていたことである。妻の収入が高いこ
とが、夫にとっての共働きのメリットとして意味付
けられていても、〈親和・共感〉的コミュニケーション
にはつながらない (figgre1 参照)。このこ
とは、妻の収入が、夫にとっての経済的意味をも
つよりも、心理的意味付けをもって、はじめて妻
へのコミュニケーションに肯定的な影響をもつこ
とを表している。収入が高く、労働時間が長いと
いうことは、妻の職業生活への強いコミットメン
トを反映していると考えられることから、夫は、
妻が“しっかり働きしっかり稼いでいる”、いわば、
男性並の真剣な働き方をしている場合に、その仕
事ぶり、働きぶりを高く評価し、妻を社会につな
がるものとして、そうした妻の生き方・あり方を
尊重していると考えられる。そうした気持ち・態
度が、親和的で共感的なコミュニケーション態度
となって表出されていると推察される。職業生活
は、生活の糧を得る場であると同時に、個人の能
力・才能を活かし、社会的承認を得る場でもある。
その意味で、職業生活は、人が社会的存在として
の自己を認識し、他者によって認識される上でき
わめて重要な役割を果たしている。夫婦関係にお
いても、妻が夫と別の独自の生活領域として職業
生活を持つことが、夫婦の間の親和的で共感的な
コミュニケーション関係を形成・維持するための
要素であることが明らかになった。

【今後の課題】本研究では、配偶者の職業生活
への評価が、相手に対するコミュニケーション態

度にポジティブな影響を与えているという関係が示された。職業的変数とコミュニケーション態度との関係には、コミュニケーションされる内容、コミュニケーションの時間やコミュニケーションプロセスなど、相互作用関係が存在すると考えられる。今後は、現在進行中の面接調査をもとに、夫・妻の職業生活がどのような心理的過程を創造し、夫婦の関係性に影響していくかを検討し、より総合的なモデルを提示することを課題としたい。

引用文献

- 福丸由佳 2000 共働き世帯の夫婦における多重役割と抑うつ度との関連. 家心研, 14(2), 151-162.
- 平山順子 1999 家族を「ケア」ということ——育児期女性の感情・意識を中心に. 家心研, 13(1), 29-47.
- 平山順子・柏木恵子 2001 中年期夫婦のコミュニケーション態度——夫と妻は異なるのか? 発心研, 12(3), 216-227.
- 平山順子・柏木恵子 (印刷中) 中年期夫婦のコミュニケーション・パターン: 夫婦の経済生活および結婚観との関連
- 鎌田とし子 1999 社会構造の変動とジェンダー関係. 鎌田とし子・矢澤澄子・木本喜代子(編) 講座社会学 14: ジェンダー. 東京大学出版会, 31-74.
- 金井篤子・若林満 1989 ワーク・ファミリー・コンフリクト尺度. 堀 洋道(監) 吉田富二雄(編) 心理測定尺度集 II : 人間と社会のつながりをとらえる(対人関係・価値観). サイエンス社.
- 松田茂樹・鈴木征男 2002 夫婦の労働時間と家事時間の関係——社会生活基本調査の個票データを用いた夫婦の家事時間の規定要因分析. 家社研, 13 (2), 73-84.
- 松信ひろみ 1995 二人キャリア夫婦における役割関係——平等主義的家族への可能性. 家社研, 7, 47-56.
- 永井暁子 1992 共働き夫婦の家事遂行. 家社研, 4, 67-77.

Table 5 パス係数(標準偏回帰係数)

属性変数	配偶者就労の意味		共働きの意味		コミュニケーション態度	
	肯定的評価 (夫)	家族生活への悪影響 (妻)	経済的・情緒的メリット (夫)	経済的・情緒的デメリット (妻)	親和・共感 (夫)	親和・共感 (妻)
夫の学歴	.119	.027	.104	.264*	.061	-.110
妻の学歴	.081	.159	.077	.002	.195	.106
夫の収入	-.208*	-.140	-.112	.193+	-.115	-.041
妻の収入	.264*	.146	-.084	.316**	-.080	-.236+
夫の労働時間	.143	.132	.004	-.065	.020	-.057
妻の労働時間	.195*	-.063	.044	-.052	-.071	-.072
配偶者就労の意味						
肯定的意味					.344**	.272**
肯定的意味					.023	-.052
家族生活への悪影響					-.263**	.142
家族生活への悪影響					.169	-.043
共働きの意味						
経済的・情緒的メリット					.052	.148
経済的・情緒的デメリット					.109	.376**
重相関係数(R)	.454***	.334+	.284	.212	.488***	.388*
決定係数(R ²)	.206	.112	.081	.045	.238	.151

(注1) ***, p<.001, **, p<.01, *, p<.05, +, p<.10

(注2) 学歴(中学卒=1, 高校卒=2, 短大・専門学校卒=3, 大学卒=4, 大学院卒=5)

(注3) 収入(30万未満=2, 30-50万未満=3, 50-100万未満=4, 100-200万未満=5, 200万~400万未満=6, 400~600万未満=7, 600万~800万未満=8, 800万~1000万未満=9, 1000万~1200万未満=10, 1200万~1400万未満=11, 1400万~1600万未満=12, 1600万~1800万未満=13, 1800万~2000万未満=14, 2000万以上=15)

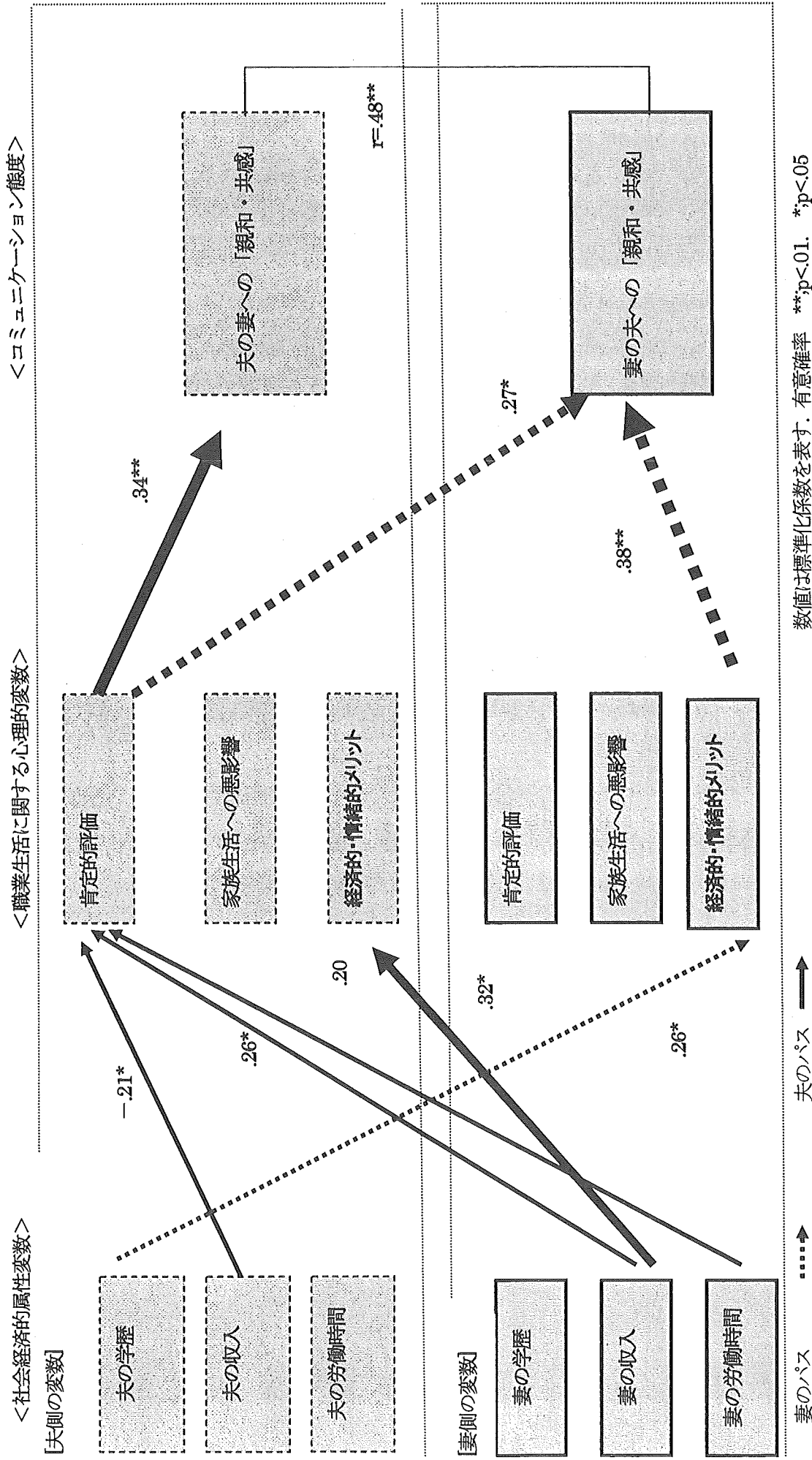


figure 1 夫婦の関係性のパス図